

「味覚観光都市」と「北方領土返還要求運動原点のまち」

はじめに

根室市は、オホーツク海と太平洋に囲まれ、その豊かな漁場の恩恵として新鮮な海の幸にも恵まれ、本土最東端に位置することから、日の出が日本一早く、四季を通じて雄大な自然と味覚を楽しむことができます。

根室は、今から300年以上前の元禄年間に開拓が始まり、開基は明治2年という、歴史の浅い北海道の中では古い歴史を持つまちです。明治年間の「函館県、札幌県、根室県」の北海道三県時代には根室県庁が置かれるなど、北海道開拓の歴史とともに歩んできました。

さらに、3代目将軍徳川家光の時代には北方領土の島々の入った地図が作られるなど、その歴史はとても古いものがあります。

根室市は、花咲ガニ、昆布、サケなどの北方領土近海の豊かな資源に恵まれ、水産業を中心に発展を遂げ、明治33年に「根室町」として誕生し、道東一の活況を見せていました。

昭和20年の戦災により「まち」の大半を焼失し、さらに北方領土を旧ソ連に不法占領されたことから人口は激減し、産業、経済の復興も一時は危ぶまれましたが、北洋漁業を中心とした水産業で立ち直り、わが国有数の水産都市として発展してきました。

その後、数々の漁業規制などにより漁獲高が大きく減少し、厳しい状況に置かれています。新しい海洋時代に対応するため、沿岸漁業資源の増養殖をはじめ水産資源の高次加工などの振興策を積極的に進めています。

安心な水産食品として供給するための「根室ブランド」を確立させるべく、市と関係団体・業界が一体となって、平成12年には、水産品の品質・衛生管理を向上させることを目的として「根室市水産HACCP推進協議会」を設立し、平成18年には、価値と産地情報の発信力を高めるために「根室おさかな普及委員会」を組織するなど、さまざまな取り組みを行っています。

食と観光の一体化

「味覚観光都市ねむろ」

根室半島の付け根に広がる「風連湖・春国岱」は、平成17年にラムサール条約湿地登録となり、学術的にも貴重な根室の自然の姿が、全国・海外に知られています。

干潟や湖、林、湿地、草原など多様な自然環境が残っており、さまざまな野鳥が生息し、これまでに約310種の野鳥が観測されており、これは、日本国内で観測される野鳥の半数以上に相当します。このことから、全国はもとより、英国など海外からも数多くのバードウォッチャーが訪れています。

春国岱は、オホーツク海の海流が運ぶ砂が堆積した砂丘で、約3000年前から1500年前にかけて形成された、年代の違う3

列の砂丘で構成されています。中でも、アカエゾマツ林は砂丘上に形成されており、世界で2例しかないという、非常に珍しい場所としても有名です。

さらに、根室市は桜の開花が全国で最も遅いことでも知られることから、市街地に位置する「明治公園」を、将来的には「全国で一番遅い桜」を楽しむことができる名所となるよう、現在、市民と協働で集



平成17年11月にラムサール条約湿地登録となった「風連湖・春国岱」

中的に植樹作業を進めています。また、根室市は、全道一の水揚げがあり、全国でも5本の指に入る水揚げを誇る「水産業のまち」です。すでに紹介したように花咲ガニ、昆布、サケなどが四季を通じて多く水揚げされており、特に、サンマは11年連続日本一を達成しました。

世界的に食品に対する安全性の意識が高まりを見せる中、根室市ではこれら地元の水産資源を「安全



9月に開催される根室の代表的な味覚イベント「根室かに祭り」

で安心な水産食品として供給するための「根室ブランド」を確立させるべく、市と関係団体・業界が一体となって、平成12年には、水産品の品質・衛生管理を向上させることを目的として「根室市水産HACCP推進協議会」を設立し、平成18年には、価値と産地情報の発信力を高めるために「根室おさかな普及委員会」を組織するなど、さまざまな取り組みを行っています。

特に、各界で活躍する根室出身者や根室にゆかりのある方10人に「ねむろ味覚観光大使」を委嘱し、「味覚」「観光」「イベント」「自然風土」といった根室ならではの魅力を、根室の応援団として全国各地でPRしていただいています。

「北方領土返還要求運動原点のまち」

根室市は、終戦の翌日から侵攻

してきた旧ソ連軍により、昭和20年9月に北方領土を不法占拠され、当時の安藤石典・根室町長が返還運動の狼煙を上げて以来、今日まで休むことなく、北方領土返還要求運動を続けています。

プロフィール

- ◆ 面積 512.71 km²
- ◆ 人口 3万432人
- ◆ 世帯数 1万3134世帯

〔将来都市像〕協働を合言葉に市民とともに創る活気あふれる住みよいまち根室

〔まちの特徴〕オホーツク海と太平洋に囲まれ、北海道の最東端に位置する水産のまち。日本有数の野鳥の楽園として知られる「風連湖・春国岱」。



根室市長 長谷川俊輔



北方領土返還要求運動原点の地
〔特産品〕花咲ガニ、サンマ、サケ、昆布、地酒、オランダせんべい、エスカロップ
〔観光〕納沙布岬、風連湖・春国岱、花咲港車石、明治公園、北方四島交流センター
〔イベント〕根室かに祭り、根室さんま祭り、金刀比羅神社例大祭、ねむろバードランドフェスティバル、北方領土ノックアップマラソン大会

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

を語る 2

喜多方市(福島県)

喜多方市長 白井英男

豊かで元気な農山村と活力ある生活観光都市を目指して 水と緑に輝くまちづくり

はじめに

喜多方市は、福島県の西北部の中核都市として人と自然が共生し、水と緑に輝くまちづくりを展開しています。市の北西部は世界自然遺産の国内候補に挙げられた飯豊山が雄大な山容を誇り、豊かな伏流水を地域に注ぎ込み、農業や醸造業などに大きな恵みを与えています。

喜多方市といえば「蔵とラーメンのまち」として全国から多くのお客さまをお迎えし、活力ある生活・観光都市の一面を持っています。基本は農業に軸足を置き、農業から派生するさまざまな価値を最大限に生かした施策を展開しています。

地元産の小麦「ゆきちから」を原料とした喜多方ラーメン、会津地



座敷蔵を活用し、当時の雰囲気の中で藤樹学を学ぶ「清座」には多くの市民が参加

た。「中江藤樹が説こうとしたこと」「中江藤樹の人柄」「現代社会が求める藤樹の教え」などをテーマにした勉強会でしたが、予想以上の反響で、会場は常に満席状態となりました。藤樹学に対する期待の大きさの表れではないでしょうか。

この「清座」は、本来、藤樹学を学ぶ者が集い、参加者全員が討論・協議しながら、人が正しく生きる道を読むものであります。これからは、一方的に話し、聞くだけでなく、参加者自らが考え、考えを発言し、全員で討論協議できる場としての「清座」を目指し、本市における人づくりの根幹を見いだしたいと考えています。

方の在来種から育成したソバ「会津のかおり」を活用した事業や、教育特区(喜多方市農業教育特区)による全国初の小学校農業科の取り組みなど、先駆的な事業を地域と行政が一体となり展開しています。

また、本市は平成18年1月4日に、喜多方市、熱塩加納村、塩川町、山都町、高郷村が合併して新たに誕生しましたが、それまで埋もれていた地域資源を掘り起こし、地域の元気再生にも取り組んでいます。

特徴的な取り組みとして、「太極拳」や「ボート(漕艇)」を活用した健康・福祉・教育・交流・地域活性化を図るため、それぞれ全国初となる「太極拳のまち」「ボートのまち」の都市宣言を行い、さまざまなイベントや市民に密着した事業を展開しています。

私の目指すまちづくり、人づくり

少子・高齢社会の急速な進行による地域活力の停滞に追い打ちを掛けるような百年に一度と称される世界的大不況の荒波の力には、一地方都市としてはあらがいようもなく、さまざまな影響が現れています。大企業の事業所に多くを依存する地方の自治体では、工場閉鎖による正規、非正規の区別のないリストラ、配置転換による人口減少などが進むことで、一つの街並みが消えてしまう恐れまで出てきています。本市においても市内企業の活力の低下は、地域の「物」や「心」をマイナス思考に追いやり、結果として負の連鎖が発生しかねません。このようなときこそ、地域が一丸となって「心」を定め、共通の目標を持って地域づくりに取り組みることが何より大切であると痛感しています。「心」が定まらないところからは「物」は生まれず、仮に生まれたとしても「人」のために有益な物とはなり得ません。

本市には、藤樹学だけでなく、日本のナイチンゲールと称される瓜生岩子刃自の事跡、日本の社会

「清座」で学ぶ人づくり

本市は、東日本で唯一江戸時代初期から明治時代にかけて、陽明学に基礎を成す中江藤樹の教え「藤樹学」が栄えた地でもあります。その教えは藤樹学が心学と称されていることから分かる通り、人として生きる道はもとより、規範意識やそれに基づく実践を説くことに特徴があります。

当時は、藤樹学を学ぶ場を「清座」と称し、喜多方地方に数多く設けられました。身分に関係なく、清座で勉強した人は千人を下らなかったともいわれています。その考えは住民の中に広く浸透し、思想面にも大きな影響を及ぼし、喜多方人の精神の根底には藤樹学の考えが生きているといわれています。

教育の形成・発展に尽くした蓮沼門三(修養団創設者)など、先人の教えが深く地域の行動規範として根付いています。この難局に立ち向かうため、まちづくりの基本を「人づくり」に置き、今一度先人たちの教えを再確認したいと考えています。

また、地域の足元には、まだまだ隠された資源、宝が隠されています。ほかに依存するのではなく、地域の資源を最大限に活用して自

プロフィール

- ◆ 面積 554・67km²
- ◆ 人口 5万4267人
- ◆ 世帯数 1万8413世帯

〔将来都市像〕豊かで元気な農山村と活力ある生活・観光都市

〔まちの特徴〕会津盆地の北に位置し、北西に飯豊連峰の山並み、東には磐梯山の頂を望む雄国山麓がす野に広がる風光明媚なまち

〔市町村合併〕平成18年1月、喜多方市、熱塩加納村、塩川町、山都町、



喜多方市長 白井英男



高郷村で新設合併

〔特産品〕漆器、桐工芸品、清酒、醤油、喜多方ラーメン、山都そば、アスパラガス

〔観光〕市内蔵めぐり、ラーメン食べ歩き、造り酒屋見学、新宮熊野神社長床「イベント」福寿草まつり、ひめさゆり祭り、会津塩川バルーンフェスティバル、蔵のまち喜多方祭り(夏・冬)、喜多方シテイレガッタ、太極拳フェスティバル



親子で楽しむボート体験教室

そこで、本市では、地域の生活規範、精神規範のよりどころとして、長くこの地域に根付いてきた「藤樹学」をさらに普及・啓発するため、「人づくり藤樹大学」を開催するなど、人づくり事業にも積極的に取り組んできました。

特に、平成20年度は、国の「地方の元気再生事業」に採択された「日本一の蔵再生によるまちおこし」の一環として、本市の代名詞である蔵を活用し、当時の雰囲気の中で藤樹学を学ぶ「清座」を開催しまし

立・自活を基本とし、人づくり、まちづくりに邁進していきます。

折しも、景気浮揚策として高速道路の料金が、東京、大阪の大都市圏を除くほとんどの地域で土日・祝日に限定し、一律1000円となりました。磐越自動車道会津若松インターチェンジで下りて北上すると、眼前に雪を頂いた飯豊山が目に見え込んできます。そこが喜多方市です。全国の皆さま、ぜひ喜多方にお出掛けください。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

幸せ度の高いまちづくりを目指して

はじめに

まず、大田原市の地理的、歴史的位置付けについて述べなければなりません。

本市は平成17年10月1日に隣接する旧黒羽町と旧湯津上村を編入合併致しました。関東平野の最北に位置するこの旧3市町村、つまり現在の黒羽町は、那須連山の雪解け水を発端とした地下の湧水に恵まれ、豊かな穀倉地帯として昔から栄えました。早くも、飛鳥



青少年宿泊研修センター「大田原市ふれあいの丘」シャトー・エスポワール内の天文館の65cm反射望遠鏡

時代にはこの地に豪族が勢力を張り、当時の古碑「那須国造碑」が市内に残っています。ちなみにこれは日本三大古碑の一つにも数えられ、国宝でもある大変貴重なものです。

その後、12世紀後半には、源平屋島の合戦において扇の射落とした那須与一の一族が那須地域一帯に城を築き、支配してました。このように、本市は、当時から地域の中心として発展してきた長い歴史を持っています。

明治以降も栃木県北地区の政治、経済、教育などの諸機能が集中する中心都市でありました。しかし、その後には整備された東京から奥州地域まで続く交通機関、具体的には国道4号線、東北縦貫自動車道路、東北本線、東北新幹線などの各交通機関は本市を外れて、すべて明治の元勳たちの開墾農地がひ

しめく那須山麓寄りに整備が進められていきました。

私が市長就任した平成2年当時、本市は往年の活力を失いかけていました。そのため、自信喪失に落ち込みそうに弱気な雰囲気や漂う斜陽のまちなみというイメージさえありました。

急ピッチに進められたハード整備

本市の持つ潜在能力の高さをよく知っていた私は、市長就任後、積極的なハード整備に着手しました。「高速交通網がなかったからこそ、このような素晴らしいまちづくりができた」と言えるように、不利な条件を逆手に取った積極的なまちづくりを進めてきました。高速交通網がないのだから「開発即発展」などというまちづくりは望むべ

くもありません。しかし、土地が広く、地価の安い本市の条件を生かして、教育、文化、芸術、福祉、スポーツ振興などの分野でハードの整備を進めることは、いくらでもできることでした。

そうして取り組んだ結果、いまは国際医療福祉大学、栃木県立県北体育館、素晴らしい音響効果誇る那須野が原ハーモニーホール、大規模な道の駅、65cmの反射望遠鏡を備えた天文館を含む青少年宿泊研修センター「大田原市ふれあいの丘」シャトー・エスポワールなどが市内に整備されています。これらは、その規模と質において目的通りに機能向上が図られてきており、その多くが高い評価を得るものとなっています。

まちづくりには能動的な細かい仕掛けが必要

さて、高齢社会となり、交流人口の増加による地域活力の向上を図らねばならない時代となりま

たが、本市は交通機関が整備されていないことから、途中下車や交通機関の乗り換えついでに、気軽に立ち寄ることができるような環境にはありません。本市を最終目的地としてわざわざ訪ねてきてもらえるように、さまざまな仕掛けづくりに努力することによって、初めて交流人口を呼び込めることとなります。

綱引きのまち、ゴルフのまち、鮎釣りのまち、将棋のまち、大田原マラソン大会、相撲部屋の夏合宿、那須与一のまちづくり、芭蕉の里、屋台まつり、与一まつり、国際彫刻シンポジウム、全国竹芸展など、一年中何らかの催しが行われています。それぞれの催しに合わせて、数百人から数千人規模



綱引きのまち。にちなんで開催されている全国青少年アウトドア綱引き競技会

市民の幸せ度を高める施策に特化する試み

しかしながら、本市程度の規模で総花的に何にでも取り組むわけにはいきません。そのため、常に施策の選択に当たっては市民の幸せ度を高めるために役に立つかどうかという判断基準に照らして選択と集中を図ることを心掛けています。

その上で、最も優先順位の高いのは教育、つまり人づくりであり、さらに健康で長生きできるような施策であることと説明しています。この考えは、市民の皆さんの間にも随分定着してきているように思います。

とりわけ、現在は学校教育、情操教育、生涯学習、そして健康診査の徹底、保健指導の徹底、介護サービスの充実などを進めています。具体的な取り組みとしては、学力テストの結果を踏まえた小学校4年時対策の強化、食育の充実、幼児の発達相談の強化、乳児ヒブワクチン予防接種、はしか予防接種率の向上、成人T細胞性白血病

プロフィール

- ◆ 面積 354・12km²
- ◆ 人口 7万6188人
- ◆ 世帯数 2万6543世帯

〔将来都市像〕住む人が輝き 来る人がやすらぐ 幸せ度の高いまち
〔まちの特徴〕那須連山と八溝山系に囲まれ、那珂川と箒川が清らかに流れる水と緑、豊かな大地に恵まれた田園都市

〔市町村合併〕平成17年10月、大田原市が湯津上村、黒羽町を編入合併



大田原市長 千保一夫



〔特産品〕地酒、米、茶、ウド、ネギ、トウガラシ、ナシ、アユ、ブルーベリー、アスパラガス
〔観光〕雲巖寺、大雄寺、那須与一伝承館、くろばね芭蕉の館
〔イベント〕与一まつり、紫陽花まつり、大田原マラソン・大田原車いすマラソン大会、全国アウトドア綱引き選手権大会、日韓対抗中高生ゴルフ選手権、国際彫刻シンポジウム

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

「夢と感動のテーマシティ いらさき」の実現を目指して

はじめに

山梨県の西北部に位置する韮崎市は、戦国の世に甲斐国の覇者として君臨した武田氏発祥の地であり、武田家が氏神として崇拝した武田八幡宮や勝頼公が自ら火を放った悲運の城である新府城跡など、武田家ゆかりの史跡が市内の至る所に点在する。甲斐武田氏のふるさとでもあります。また、周囲には雄大な霊峰・富士をはじめ、南アルプス、八ヶ岳、茅ヶ岳といった日本の名峰がそびえ立ち、本市が誇るべき大自然のパノラマが360度に展開します。

さらには、モモ、ブドウなどの果樹や甘利山のレンゲツツジ、一本桜で知られるわに塚の桜など豊かな自然が織りなす風景は市民や訪れる人々に安らぎとぬくもりを感じていただけるまちです。

一方で、中央自動車道、中部横断自動車道、国道20号、52号、141号などの主要幹線道路が集まる優位な交通条件を生かした工業団地の整備や企業誘致により、先端技術産業の立地が進み、現在は県内有数の製造品出荷額を誇る工業都市でもあります。

第6次長期総合計画のスタート

今年度は、今後10年間の本市のまちづくりの指針となる「第6次長期総合計画」のスタートの年に当たります。この計画の基本理念は、「豊かな自然と歴史を愛し、美しい心と強い絆のまちづくり」「夢と感動を共有し、多様な価値観に対応できるまちづくり」「市民が協働し、新しい創造力を備えた人が集まるにぎわいのある豊かなまちづくり」の3つです。

また、本市が目指す将来都市像を「夢と感動のテーマシティ いらさき」と設定し、地域に住む人が子どもから高齢者まで夢を持ち続け、その実現により感動することができると、そしてまちを訪れた人もさまざまな魅力に触れ、感動することができると目指すものです。さらに、計画の推進テーマを「美しく、人・地域が輝く未来へのものがたり」と致しました。これらの基本理念、推進テーマに基づき実施する主な施策の一部をご紹介します。

心地よい定住環境のあるまちづくり

長年、懸案となっていた市所有の広大な山林につきましては、この用地を有効活用した「穂坂の森・自然公園」の整備や「ふるさと協議会」を中心とした市民の方々の協



「わに塚の桜」田園の中の孤高の一本桜。凛として咲き誇る姿は尊く美しい

ターチェンジ西側の「農工団地」の造成計画につきましては、周囲の山々を一望できる風光明媚な地であることとショッピングセンターなどの市街地へも車で3分という好立地条件を生かすとともに、地権者の皆さまをはじめ地域の方々のご理解とご協力をいただきながら、優良企業誘致による雇用の拡大や創出を図り、周辺地域の特色を生かしたまちづくりに努めているところです。

さらに、市西部に位置し、恵まれた歴史と景観が織り成す神山地区は、武田氏ゆかりの歴史遺産などの文化財や名所が数多く点在しており、本市の名誉市民で北里研究所名誉理事長・女子美術大学理事長の大村智様から寄贈された「韮崎大村美術館」なども活用し、自然と歴史と文化が調和した総合的な「武田の里まちづくり」を推進することとしております。このまちづくりは、文化庁の「文化財総合的把握モデル事業」の採択を受け、地域の皆さまとの協働により基本構想の準備を進めているところです。

魅力あふれるまちづくり

このたび、中央本線韮崎駅前に

民間活力による大型ショッピングセンター「ライフガーデンにらさき」がオープンいたしました。これにより、人が集まりにぎわいを創出する「人の来るまちづくり」が図られ、この効果が周辺地域にも波及し、新しい都市計画の「まちなか活性化」につながっていくものと期待するところです。また、「韮崎市まちなか活性化計画」に基づき、「中心市街地の再生」「新たなイメージづくり」を推進するため、「まちなか活性化促進提案型事業補助金」を充実するとともに、商店街の皆さまにより運営されております「いらさき朝市」につきましても、内容や展開場所などの拡大も含め、引き続き支援し、商業の振興につなげてまいります。

おわりに

少子高齢化の進行、国際化、高度情報化の進展や地球規模での環境問題への対応、金融危機に端を発した世界経済動向の激変など、近年の社会経済情勢は急激に変化しており、地域社会や市民生活にさまざまな影響を及ぼしています。また、地方分権が進展する中で、市民の各種ニーズに対応し、持続

的で良質な行政サービスを提供するためには、行政改革の徹底や財政基盤の強化を図るなど、自治体としての自立性を高め、これまで以上に効果的かつ効率的な自治体運営に努めていくことが求められております。

このため、あらゆる課題に迅速に対応し、本市が持つさまざまな魅力を生かしたまちづくりを進めるべく、新たな長期総合計画を策定しました。本市には県北部地域における交通拠点をはじめ、恵ま

れた歴史・文化資源や豊かな自然環境など、これまで培ってきた中核都市としての優れたポテンシャルがあり、そこには、いつの時代も市民が中心的な役割を担い発展を続けてきた、韮崎市ならではのまちづくりの伝統と精神が息づいております。今後も本市を彩るさまざまな資源と地域の絆を基に、市民の皆さまとの協働により、夢と感動を共有し、さらなる飛躍と発展を目指してまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 143・73 km²
- ◆ 人口 3万2359人
- ◆ 世帯数 1万2293世帯

〔特産品〕 水稲、ブドウ、モモ、リンゴ

〔観光〕 わに塚の桜、甘利山のレンゲツツジ、武田八幡宮本殿、南アルプス鳳凰三山、平和観音、新府城跡、韮崎大村美術館、銀河鉄道展望公園、深田記念公園

〔まちの特徴〕 南アルプス・八ヶ岳・奥秩父山系に囲まれた山紫水明の地。武田氏発祥・終焉の地としても有名。交通の利便性を背景に、先端産業が立地

〔イベント〕 武田の里まつり、武田の里ウォーク、武田の里サッカーフェスティバル、福祉の日記念まつり、甘利山フォトコンテスト



韮崎市長 横内公明



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

市民力の結集でつくる「おかげさま」のまち

「神宮御鎮座のまち」として

伊勢市は、平成17年11月1日に伊勢市、二見町、小俣町、御園村が合併して誕生したまちで、三重県の中東部、伊勢平野の南端部に位置しています。

伊勢志摩国立公園の玄関口でもある本市は、北には伊勢湾の豊かな海、中央には日本一の清流を誇る宮川や五十鈴川、東から南にかけては朝熊山、神路山、前山、鷲嶺の山々、西には大仏山丘陵と、バリエーション豊かな自然に彩られた、美しいまちです。

本市は、古くから「お伊勢さん」と呼ばれ、日本人の心のふるさととして親しまれ、神宮御鎮座のまちとして栄えてきました。20年ごとに繰り返される「神宮式年遷宮」は、人々の思いを技術とともに後世に伝え、今も、1300年もの

はるかな昔と同じ方法で新しい社殿が造営され、神宝や装束も整えられています。

平成20年の1年間で外宮と内宮の参拝者数は、合計750万人を超え、平成21年の三が日の初詣で客数は67万9000人と、前年を7万7000人ほど上回りました。特に年末年始の内宮周辺は、江戸時代に社会現象ともなった「おかげまいり」さながらのにぎわいで、大御神が新しい社殿に遷られる平成25年秋を控え、これからも本市への来訪者は増えていくと思われまします。また、本年11月3日には、五十鈴川に架かる木造の宇治橋の渡り始めが行われ、奉祝によるにぎわいを期待しています。

遷宮行事関連以外でも、本年5月30日(土)、31日(日)には、花と緑で訪れた皆さまをお迎えする「第52回全日本花いっぱい伊勢大会」

が、また9月8日(火)～13日(日)には、世界の50の国々と地域から多数の選手や大会役員が集まる「第29回世界新体操選手権三重大会」が本市で開催され、関係者をはじめ、国内外からたくさんのお客さまをお迎えします。

参加自由なプロジェクトで「観光のまち」をつくる

本市では、平成19年9月に「伊勢観光活性化プロジェクト会議」を立ち上げました。ここでは市民、事業者、団体、行政を問わず、観光のまちづくりに興味のある者が集まり、伊勢に來られる皆さまに満足していただくためにはどうすればよいか、どうやって「伊勢」を発信していけばよいかなどについて話し合っています。会議は常にオープンで、興味があればどなたでも参加可能となっています。



伊勢観光活性化プロジェクト会議の様子

会議の理念は「聖地伊勢から『おかげさま』の心を伝えよう。」です。この理念は参加者が考え抜いてつくったもので、「おかげさまの心」という言葉には、「人間は、正しい自分の力によって『生きていく』と思いがちですが、自然、人、他の生命など、多くのものによって『生かされている』のです。その自分を取りまくさまざまな『他なるもの』に対する感謝の気持ちがある

「お伊勢さん」は、ここに住むわれわれがつくるものです。伊勢に來られる皆さまが、参拝で心が洗われるように、市民との交流の中で幸せを分かち合い、心豊かな気持ちで帰っていただけることを願ってやみません。そのために、市民一人一人がおかげさまと互いに

言えるような関係を築き、市民力を結集して、感謝の気持ちでお客さまをお迎えする態勢づくりを進めています。

プロフィール

- ◆ 面積 208.53 km²
- ◆ 人口 13万4870人
- ◆ 世帯数 5万3255世帯

【将来都市像】

美し風起つ回帰新生都市
伊勢志摩国立公園の玄関口として歴史文化や美しい自然に恵まれる。

【まちの特徴】伊勢神宮の鳥居前町、伊勢志摩国立公園の玄関口として歴史文化や美しい自然に恵まれる。

【イベント】おひなさまめぐりin二見、伊勢神宮奉納全国花火大会、かんこ踊り、伊勢まつり、神嘗奉祝祭、お伊勢さん健康マラソン

【特産品】伊勢うどん、伊勢たくあん、ひじき、蓮台寺柿、伊勢春巻、真珠、伊勢玩具

【観光】伊勢神宮、おはらい町、おかげ横丁、二見浦、夫婦岩、河崎の町並み、神宮御鎮座、朝熊山

【施設】伊勢神宮、おはらい町、おかげ横丁、二見浦、夫婦岩、河崎の町並み、神宮御鎮座、朝熊山



御用材を運ぶ「お木曳」行事

「市民力の結集」を期待して

遷宮にかかわる行事の一つに、社殿の材料となる御用材を運ぶ「お木曳」という行事があります。この行事のため、神領といわれる古くからの地域はもちろん、合併して「伊勢市」となった地域の一部で

環境ツーリズムの視点でお伊勢参りをしてもらってはどうかだろうか。「子どもたちに駅前案内体験をしてもらい、自分の住むまちの素晴らしさに気付いてもらおう！」など、どの事業もすべて自由な意見交換の中で進められています。

また、本年3月には、会議の思いや取り組み、参加者の紹介などが掲載されたホームページが立ち上がりました。行政的な堅さのない、ぬくもりがじかに伝わるような内容は、参加者手づくりならではの特徴といえるでしょう。

発足から1年半が経ち、観光業とは縁のない方も、学生や県外出身の方も、また観光で生計を立てている方も、行政も、皆が手探りで進める中で、立場を超えたつながりができ、得意分野を生かした連携が生まれています。まさに「市民力の結集」です。



伊勢市長 森下隆生

【市町村合併】平成17年11月1日、伊勢市・二見町・小俣町・御園村が新



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

「住みよさ実感」を指して

瀬戸内交流文化都市「たけはら」

はじめに

竹原市は、広島県沿岸部のほぼ中央に位置し、豊かな山と穏やかな



「道の駅」のオープンによりさらなる交流人口の増加が期待される町並み保存地区

な瀬戸内海に面した自然と人とはぐくまれた歴史と文化が息づく人口約3万人のまちです。広島空港や山陽自動車道河内ICから南へ車で25分、竹原港・忠海港といった2カ所の地方港湾を有する交通の要衝でもあり、これらの地理的な財産を生かしながら、市民一人一人がゆとりある暮らしを楽しむ、さらに豊かな未来へつなげるために、新たなにぎわい創出を目指した都市づくりを進めています。

古くは平安時代より京都下鴨神社の荘園として栄えた竹原は、温暖少雨の気候を生かし、江戸時代には製塩業で飛躍的に発展しました。

その富で発展した上市・下市地区の町並みには、贅を凝らした重厚な家々が立ち並び、今でも往時の姿をとどめ、昭和57年には国の

重要伝統的建造物群保存地区に選定されています。本市も、多くの市町と同様、人口減少が進んでおり、高齢化率も30%を超え、将来的にも厳しい人口減少・高齢化の進展が予想されます。このような状況の下、持続可能な行財政運営や竹原らしい個性的で魅力あるまちづくりの推進に向けて施策を展開しています。

住民協働のまちづくり

本市では、本年3月に「第5次竹原市総合計画」を策定し、「住みよさ実感 瀬戸内交流文化都市 たけはら」を目指す将来像に掲げました。

地方分権が進展する中、住民自らが地域のことを考え、地域の特色を生かしたまちづくりを行うためには、市民や各種団体もまちづ

くりの一員として、行政とのパートナーシップの下で、協働してまちづくりに取り組むことが重要であると考えています。

こうした中で、本市の持つ自然環境や歴史文化、コミュニティなど、持てる地域資源を生かして、多彩な交流・ふれあい、さらなる歴史文化をめぐみ、生き生きとした暮らしやまちの活力・魅力を継承・発展させ、「訪れたい、住んでみたい、住み続けたい、そして住んでよかったと思えるまち」の実現を目指しています。

本計画の基本構想では、まちづくりの大切なキーワードを「協働」とし、人と人、地域と地域のかかわりの中で互いの力を引き出し合い、個々の力を重ね合わせることで、その可能性を広げていくように、まちづくりの推進力をみんなで築いていくことを目指しています。

また、地域コミュニティの充実を図り、多様な取り組みの主体が

信頼関係を築きながら、連携・協力し、創意工夫できる協働のまちづくりを推進しています。現在、自治会、市民活動団体などが連携する住民自治組織の設立と地域の

将来計画である地域行動プランの策定をサポートしていますが、引き続き住民自治能力の向上を図りながら、地域の課題解決、魅力アップなどを地域と行政が共有して、自助、共助、公助の下に取り組んでまいります。

交流と暮らしの軸づくり

歴史的景観を今に残す町並み保存地区に隣接し、一般国道185号と主要地方道三原竹原線が交差する中心市街地に、従来の「道の駅」の機能である休憩機能、情報発信機能、地域連携機能に加えて、国道185号沿線で初めてとなる防災拠点機能を兼ね備えた都市型の「道の駅」を整備しています。

平成22年秋にオープン予定である、この「道の駅」は、町並み保存地区を訪れる観光客のゲート



住民参加により開催する秋のイベント「たけはら憧れの路」準備作業



竹原市長 小坂政司



【特産品】パレイシヨ、タケノコ、ブドウ、ジャム、清酒、レング
【観光】町並み保存地区、休暇村大久野島、たけはら美術館、湯坂温泉郷
【イベント】桜まつり、竹まつり、たけはら憧れの路、夏まつり花火大会、忠海祇園祭、二窓の神明祭

プロフィール

- ◆ 面積 118.3km²
- ◆ 人口 2万9860人
- ◆ 世帯数 1万2993世帯

【特長】陸・海の交通の要衝で、かつては製塩業で栄えた。上市・下市地区の町並みは、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定。現在、地

【将来都市像】人・自然・時の豊かさ「住みよさ実感 瀬戸内交流文化都市 たけはら」

けて港町としてにぎわい、発展してきた歴史のある地域です。

平成19年9月に、国道185号沿線地域の住民と団体などで構成する「R185みちばた会議」が行ってきた、みちばたフォーラム、案内看板の設置、瓦版・マップの発行、地域再発見のバスツアーなど、地域の活性化に向けた活動の成果が認められ、国土交通省が進める「日本風景街道」の中国地方登録第1号に認定されました。市民との協働によるまちづくりを推進

する本市にとりまして、意義深く名誉なことです。

今後も、地域のパートナーシップをさらに強化し、より質の高い「日本風景街道」を目指すとともに、住民主体の地域づくりを積極的に支援し、地域の活性化につなげていきます。

これからも、市民の皆さまと共に、一人一人が輝き、豊かさを感じ、住みよさを実感することができるよう竹原市の実現に向けて取り組んでまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

自然・ひと・文化が共につくるきよらの郷

はじめに

奄美市は、平成18年3月20日に旧名瀬市、旧住用村および旧笠利町が合併して誕生しました。鹿児島県本土と沖縄のほぼ中間に位置し、大小8つの有人島からなる奄美群島の拠点都市です。

白い砂浜とさんご礁、特別天然記念物のアマミノクロウサギやルリカケスなどが生息する深い森、



皆既日食のPRポスター

その森と海をつなぐマングローブ原生林の広がり。世界自然遺産登録を目指すこれらの豊かな自然を身近で体験できるのが、本市の一番の魅力です。昨年「奄美市世界自然遺産登録推進のための寄付条例」を制定し、奄美ファンを対象に寄付金活動も行っています。

また本市には、先人たちの努力により守り受け継がれてきた伝統工芸品「本場奄美大島紬」や特産品「黒糖焼酎」などの全国ブランドがあります。これらの伝統技法を生かし、新たなモノづくりに果敢に挑戦していく公募・提案型事業「知恵のチャレンジ」にも取り組んでいます。

7月22日の皆既日食に向けて

さて、今年の7月22日には今世

紀最大の天体ショーとなる「皆既日食」が本市で観測されます。日本では46年ぶりに体験できるものです。国内はもとより、世界中から多くの観測者の来島が見込まれています。そのため、受け入れ態勢には万全を期すと同時に、観光地奄美を世界に発信できる千載一遇の好機ととらえ、音楽祭をはじめ多彩なイベントが企画されています。奄美大島の空の玄関と海の玄関、奄美空港と名瀬港はどちらも本市にあります。一人でも多くの皆さまがこの奄美の地に降り立ち、世紀の瞬間に立ち会えることを期待しています。

「二集落1ブランド事業」で活性化に取り組む

地域活性化の原動力となる「ユイ（結）」の精神が今なお温存されてお

ケルメリットを生かしつつ、分権時代に対応した行政改革や財政優遇措置などにより比較的スムーズな船出となっています。祭りや各種イベントの盛況から、奄美市民としての一体感が着実に芽生え、浸透しているものと感じています。

私は、初代奄美市長という重責を担ってからは、未来への揺るぎない歩みと、何よりも「市民との共生・協働の意識」の醸成が極めて重要であると考え、市政運営を進めてまいりました。国際的な金融危

り、伝統芸能である「八月踊り」や集落行事の実施に当たっては、地域力の発揮を推進しています。こうした奄美地域の特色を生かした「市民との共生・協働」によるまちづくりの一環として「二集落1ブランド事業」に取り組んでいます。

各集落にある「シマの宝」を奄美市集落ブランドとして認定し、ホームページや新聞などで広く紹介することによって、地域の再発見を促し、ブランド体験モニターツアーの実施やブランド認定品の商品化を図るなど、新たな事業展開を目指しています。現在、八月踊りや島唄などの伝統文化、自然景観、食などの19品目をブランドとして認定しています。

地域文化の保存・継承と振興

昨年は「ねんりんピック鹿児島2008」の民謡大会が本市で開催されました。全国大会で何度も優勝するなど、島唄は奄美の芸能文

化のトップランナーです。文化は、人々に感動や生きる喜びをもたらすし、シマ（奄美市）の魅力も高めてくれています。

本市では地域の宝である伝統文化や文化財などの掘り起こしと学術的調査を行い、郷土学習、観光産業などを網羅し、「文化財を活かしたまちづくり」の計画策定に着手しています。文化財については笠利地区にある国指定の赤木名城跡を含めた文化的景観事業や名瀬地区にある小湊フワガネク遺跡の国指定に向けた活動などを展開しています。これら、有形、無形の奄美市の文化を、未来の世代に大切に残していくこととしています。



伝統芸能の一つでもある八月踊り

子どもたちの明日のために 21世紀を担う子どもたちが身に付けなければならないのは「豊かな人間性」「確かな学力」「たくましく生きるための健康・体力」を備えた「生きる力」と考えています。その力をはぐくむため、地域に開かれた学校づくりや、豊かな自然や郷土の教育的風土に根ざした体験活動、地域の人材を生かした学習、小規模校の活性化や特色ある教育活動の支援を行っています。

また、姉妹都市のナカドウチエス市（米国テキサス州）との交流を通して、国際的な視野に立ち、郷土を愛する人材の育成に努めているところではあります。

さらに、鹿児島大学大学院奄美サテライト教室の運営を支援し、人材の育成に努めるとともに、鹿児島大学や琉球大学、奄美産業クラスターの会員企業などと連携し、奄美の未利用資源を生かした研究開発を促進するなど、子どもたちの明日のための布石を打っています。

おわりに

早いもので、本市が誕生して4年目を迎えました。合併によるス

プロフィール

- ◆ 面積 306.48 km²
- ◆ 人口 4万8146人
- ◆ 世帯数 2万3805世帯

〔将来都市像〕自然・ひと・文化が共につくるきよらの郷

〔まちの特徴〕亜熱帯海洋性気候の豊かな自然と、島唄や八月踊りなどの古くから伝わる独特な文化を持つ。

〔市町村合併〕平成18年3月、名瀬市、



奄美市長 平田隆義



住用村、笠利町で新設合併

〔特産品〕本場奄美大島紬、黒糖焼酎、ハブ皮製品、黒糖、パイアの味噌漬、ウニの缶詰、鶏飯

〔観光〕奄美パーク、あやまる岬、大浜海浜公園、金作原原生林、黒潮の森マングローブパーク

〔イベント〕奄美まつり、あやまる祭り、三太郎まつり、奄美市まなびフェスタ

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。